

昭和48年1月13日第3種郵便認可H S K通巻497号

発行/北海道障害者団体定期刊行物協会

発行日/2013年8月10日(毎月10日発行)1部50円(会費に含む)

編集/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光

会報/203

2013. 8月号

ほろみ



白老町手をつなぐ育成会

旧右田医院をグループホームに

鹿児島県に引っ越された右田さんから、旧右田医院の寄贈の申し入れがありました。下の写真の建物ですが、築13年ぐらしか経っていませんので外枠はしっかりしています。冬の管理が悪かったために、内部の改築はかなり必要としていますが、立派な建物です。

6人の入居が可能なグループホームとして12月にはオープンしようと考えて、現在改築について業者等と詰めています。

「できれば見学したい」という申し込みも来ていますので、完成を期待している人もいます。ご期待下さい。

旧右田内科医院
の正面→



←旧右田医院の側面

(中の換気、外の草取り等維持管理を今のところしています。)

育成会全道大会に参加してきました

7月27日（土）と28日（日）の2日間倶知安で北海道手をつなぐ育成会の全道大会が開かれました。参加は佐藤、国本、金子、近藤、有田さんご家族の計7名でした。この日はその他に、虎杖浜の三大祭りへの出店等もありました。虎杖浜の方は初日大雨で2日目もちょっと小雨模様の天気でしたが倶知安はそこそこの良い天気で、北海道の広さを感じたものです。



↑
参加の7名です

倶知安でも外販です →



↑
第58回になりました



やっと20,000円を越えました

7月はフロンティアの賃金の改訂期にあたります。6月までの勤務実態によって7月から12月までの利用者の新しい時給や日給が決まるのです。6ヶ月間一生懸命働いてきた実績が出てくるのです。

フロンティアではこの間たくさんの方々のご協力により、作業が事業化する芽が出てきましたので、先食いで賃金の底上げを図ることにしました。生活介護では、最低賃金を日給で100円アップすることにしました。就労継続支援B型の最低賃金は時給で10円アップすることにしました。その結果、全体では月の平均賃金が20,000円を越えました。ちなみに、フロンティアの当面の目標は、月35,000円です。

後援会費の納入ありがとうございます

つづきです

野本さえ子、松原迪子、尾野建設、坂本時雄、坂本静子、田中博治
小林賢次、小林麻里、上野正敏、斉藤英司、天野弘一、佐々木淳子
大淵紀夫、松村佳子、東海林優、広橋博子、多原良子、田湯加那子
坂東道子、吉田 翠、松本 哲、松本玲子

(※「前回、後援会費を払った人の名簿に名前が載っていない人がいるよ」と言われて名簿と照らし合わせると名前を載せていない方がいました。申し訳ありませんでした。「つづき」とか「載りきらなかった方は次号にと書かないと忘れられたと思う人もいるかもしれないよ」という指摘も受けました。1ページに載るだけ載せただけです。失礼をしました。今回でも、お名前が抜けていることもあるかもしれません。その時はごめんなさい。)

3 団体合同療育キャンプ

7月13日(土)と14日(日)、エミナ親の会、ことばを育てる親の会、手をつなぐ育成会の3団体合同の療育キャンプが千歳→長沼→栗山と巡る旅行で行われました。

千歳の防災センターでの地震体験や救助体験はとても参考になりました。長沼のホテルでは、朝クワガタを見つけることができました。長沼の酒蔵は歴史を感じさせるものばかりでした。天気にも恵まれみんなで楽しく終了することができました。

今にすればあの天気
が懐かしいです。





教室での階層の存在を描いた小説やエッセー



「子供にとってコミュニケーション強者はお笑い芸人。空気の読み方、人のいじり方のテキストになっている」と話す齋藤環さん

「スクールカースト」という言葉がある。子供たちが日常を送る学校空間で、自然と発生する階層・序列を示す造語だ。インドの身分制度になぞらえられるほどの「地位の差」が生徒やグループ間にできるシステムは、いかにして生まれるのか。いじめにも直結する教室の実態を考えたい。

運動部の活動やルックスの良さを幅をきかせる「上位」の生徒たちがはしゃぐ教室。その片隅で存在を顧みられず、息を潜めるように「下位」の日々を送る映画部の涼也は自らを監督する映画の脚本にこんな言葉を刻む。「戦おう。ここが俺たちの世界だ。俺たちはこの世界で生きていかなければならないのだから」

学校で自然発生 スクールカースト

「地位」の差 いじめの培地に

「教室という格差社会」を描き、2013年の日本アカデミー賞で最優秀作品賞を獲得した映画「桐島、部活やめるってよ」。原作は大学在籍中にデビューした朝井リョウの同名小説だ。スクールカーストという言葉が一般的に知られるようになったのは、教育評論家の森口朗が07年に刊行した「いじめの構造」での言及が最初とされる。だが、その階層の存在は白岩玄「野アタ」をプロデュース（04年）、木室権「りはめより100倍恐ろしい」（06年）、豊島ミホ「底辺女子高生」（06年）といった小説やエッセーなどで早くから表現されてきた。

東大大学院博士課程の鈴木翔はアンケートや生徒、教師へのインタビューなどを基に、スクールカーストそのものを研究対象にした「教室内カースト」（光文社新書）を昨年12月に刊行した。あまたある「いじめ研究」ではなく、いじめの「培地」を見つめたのには理由がある。多くの人が存在に気づきながら、あまり考えずささいなこととしてきた。だが、なんとなく笑いのにされたり、見下されたりする関係が完全に固定化したときに、いじめ自殺などの大きな事件が起こるのではない。

上位グループには「気が強い」「異性の評価が高い」といった特徴があり、「地味」で「目立たない」生徒が下位グループになりやすい。意見を押し通すなどの特権に恵まれる上位の結束力、影響力に恐怖心を抱く下位。互いが「空気を読んで」関わる中で地位の差は固定化し、自分の力で変えることはできない。

生徒がスクールカーストを「権力」の構造と捉えているのに対し、教師は「生きる力」「コミュニケーション力」など「能力」のヒエラルキーとみる。けんかが強い、勉強ができるといったかつての評価軸が「実態の分かりづらい、個人の努力ではどうにもできない

評価軸、曖昧に「上がる方法分からぬ根深さ」

〇〇力に変わったと鈴木。 「だから下位から抜けようとしても、上がる方法が分からない。問題の根深さはそこにあります」

「キャラクター精神分析」などでスクールカーストを論じてきた精神科医の齋藤環はいう。実は教師もカーストに組み込まれている。生徒を管理する強者の立場にいるため、上位グループにすり寄りざるを得ない。上から目線のように、本当はおびえています」

問題の根本は「協調性に重きを置きすぎる学校教育のあり方にある」とも。上位が仕切る方が学級運営はスムーズに進むという「効率」と引き換えに「根拠なく下位にされる生徒に集団で劣等感を植え付けるシステム」は、個人より集団の利益を優先する大人社会の投影にほかならない。

ホームルームの班替えやクラス替えを頻繁にするなど「ささやかだけど即効性のある抵抗はある」と齋藤。「だが、例えばママ友の関係のように、学校だけでなく、あらゆる世代にカーストはあるはず。これは社会の根幹に関わる問題です」

「桐島」の涼也の目の前に広がる風景は、日本社会における最前線の「戦場」なのかもしれない。

ふろんていあ♡メール

Frontier

就労支援施設
フロンティア♡MAIL

2013年8月号

〒059-0922
白老町萩野310-110
TEL・FAX0144-83-3537

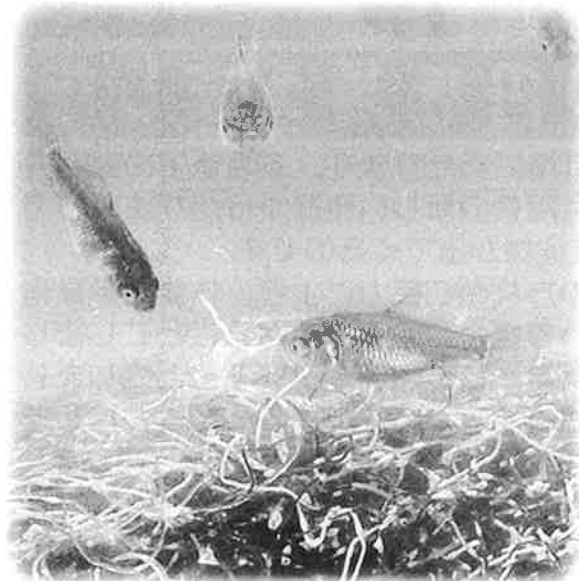
7月のフロンティア

7月のフロンティアは暑いような…そうじゃないような。

7月の白老は雨と湿気で気だるい天気が続き体調を壊す人もいましたがフロンティアの仲間たちは元気に頑張っています。夏の季節が到来し、今年はたくさんのお祭りやイベントに呼んでいただきフロンティアの職員はまるで露天商になった気分です。毎週末になればソフトアイス、ポップコーン、もちもちドーナツ、フライドポテト、焼き鳥、焼きそばなど年々商品ラインナップを増やしてもうける夏を利用者と共に満喫しています。

(ボランティアで手伝いしていただける方募集中です。)

フロンティアの赤ちゃん



写真の魚は何だと思いませんか？
実は、金魚の稚魚です。茶連慈の水槽で飼っている金魚の卵がふ化してたくさんの赤ちゃんが生まれました。はじめは目に見えるのがやっとの稚魚も1cmくらいの大きさに育ってきました。将来はフロンティアの露天アイテムとして活躍してもらえるかもなどという野望を抱きながら目を細めて育成しております。

保護者会主催のビアパーティー

7月20日(土曜日)に保護者会主催のビアパーティーが会長、田湯さんの挨拶で始まり、沢山の保護者・所員・職員で盛り上がりました。

当日は少し肌寒い感じのお天気でしたが、温かいおでんや焼き鳥、豚汁に焼きそばなどお腹いっぱいになりました。御馳走様でした。

準備の為に奮闘くださいました、皆様本当にご苦労さまでした。



「大きく熟したトマト」



「みずみずしいきゅうり」



「たわわに実ったピーマン」

よろしく願います。

昨年から少しずつ本格的になってきてる農業分野で育てたトマトやキュウリ、ピーマンなどはすくすくと育ってきています。無農薬の有機栽培でEM発酵鶏糞を使い味が詰まった美味しい野菜です。収穫した物は喫茶茶連茲で販売していますので

無農薬有機栽培の野菜を販売しています

印刷部門の新製品のお知らせ

イベントや大会、会社や飲食店のPRなどで制作してみませんか？

フロンティアの印刷部門ではオリジナルうちわの受注をはじめました。

小ロットからお手軽価格でお受けいたします。

北海道手をつなぐ育成会の全道大会やいけまぜフェス in2013 などでも採用されました。まずはお見積もりから気軽にご相談下さい!!





ほほえみ203号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
2013年8月10日発行(毎月10日発行)
H S K通巻番号497号 1部50円
編集/〒059-0922

北海道白老郡白老町字萩野310-110
白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光
TEL 0144-83-3537

発行/〒063-0868

札幌市西区八軒8条東5丁目4-18
北海道障害者団体定期刊行物協会
細川久美子 (TEL 011-736-1724)